

# 総務教育常任委員会資料

(令和7年12月18日)

ページ

- 令和6年度末本県出身大学生等の県内就職状況等について

【政策統轄課】・・・2

- 「ミラ・クル・とっとり元気フェス」の開催結果について

【協働参画課】・・・3

政策統轄総局

令和 6 年度末 本県出身大学生等の県内就職状況等について

令和 7 年 1 2 月 1 8 日  
政策統轄課

令和 7 年 3 月に卒業した本県出身大学生等の県内就職状況について、県内・県外大学等に調査を行った結果は次のとおりでした。

【結果概要】  
1 県内大学等卒業者の県内就職率は 28.2%（前年比△0.7%）  
…大学別では、公立鳥取環境大学 20.0%（+1.2%）、鳥取看護大学 73.9%（+3.4%）が増加、鳥取大学 16.9%（△0.6%）、鳥取短期大学 81.9%（△0.8%）、米子工業高等専門学校 8.5%（△5.9%）が減少。  
2 県外大学等に進学した本県出身者のリターン就職率は 30.8%（前年比△4.3%）  
…大学の地区別に見ると、中国地方 44.4%（△1.1%）、関西地方 21.3%（△6.0%）と減少した一方、関東地方 16.4%（+3.9%）となり増加した。  
⇒全国的な有効求人倍率の上昇を背景に、都市部における学生の引き合いが強まっていることも要因の一つである一方、これまでの就職協定校との連携や情報発信などにより関東地方では増加が見られました。

（１）県内大学等卒業生の県内就職状況

	就 職 者 (A)								卒 業 者 (C)							
					うち県内就職 (B)								うち県内出身 (D)			
	うち県内出身				うち県内出身				比 率 (B/A)				比 率 (D/C)			
鳥取大学	871	( 868 )	135	( 140 )	147	( 152 )	98		16.9%	( 17.5% )	1,412	( 1,418 )	210	( 245 )	14.9%	( 17.3% )
公立鳥取環境大学	250	( 239 )	55	( 43 )	50	( 45 )	37		20.0%	( 18.8% )	281	( 271 )	61	( 43 )	21.7%	( 15.9% )
鳥取看護大学	69	( 78 )	49	( 59 )	51	( 55 )	41		73.9%	( 70.5% )	73	( 83 )	52	( 62 )	71.2%	( 74.7% )
鳥取短期大学	210	( 208 )	192	( 183 )	172	( 172 )	170		81.9%	( 82.7% )	239	( 241 )	217	( 216 )	90.8%	( 89.6% )
米子工業高等専門学校	130	( 146 )	122	( 132 )	11	( 21 )	11		8.5%	( 14.4% )	199	( 219 )	178	( 193 )	89.4%	( 88.1% )
合計	1,530	( 1,539 )	553	( 557 )	431	( 445 )	357		28.2%	( 28.9% )	2,204	( 2,232 )	718	( 759 )	32.6%	( 34.0% )

※（ ）内は前年数値。鳥取大学と鳥取環境大学は大学院（修士課程）含む。（地元定着に関する協定に用いた値（県内就職率）は学部生のみを対象としており、上記の数値とは異なる。）

（２）本県出身の県外大学等卒業生の県内就職状況

卒業年月	有効回答数	県内高校出身者数 (A)	就職者数 (県内外含む)(B)	県内就職者数 (C)	就職者に占める県内就職率 (C/B)		
					全体	男	女
R7.3	89 校	1,045 人	865 人	266 人	30.8%	27.4%	33.9%
R6.3	91 校	1,128 人	901 人	316 人	35.1%	29.6%	39.9%
R5.3	86 校	1,155 人	917 人	354 人	38.6%	35.1%	41.9%
R4.3	83 校	1,125 人	887 人	336 人	37.9%	35.7%	40.4%
R3.3	78 校	1,057 人	835 人	336 人	40.2%	39.5%	40.9%
R2.3	65 校	968 人	816 人	324 人	39.7%	37.5%	42.1%
H31.3	60 校	960 人	793 人	282 人	35.6%	32.5%	38.6%

（調査対象(R3.3 卒以降)：本県出身者在籍数上位 100 大学及びその他協定締結校)  
（調査対象(R2.3 卒以前)：本県出身者在籍数上位 50 大学、関東 15 大学、関西 10 大学及びその他協定締結校)  
＜概要＞  
・地区別では、中国 44.4%、四国 28.8%、関西 21.3%、関東 16.4%、九州 22.7%、中部 0%  
・分野別では、文系 25.2%、理系 21.9%、医療・福祉 41.1%、教育 57.3%、その他 28.4%

（３）県内就職の促進に向けた主な対策

- 県内学生に対しては、県内企業の見学会や県内就職した先輩（とっとり就活サポーター）との交流会等の実施に加え、高校生・大学生低学年から企業を知ってもらう「とっとり若者×産学交流 FES」を開催するなど県内企業への就職の機運醸成を図る。
- 対象業種を公務員以外の全業種に拡大し、募集定員を大幅増員した未来人材育成奨学金について各種イベントやとりふる、就職協定校等と連携しながら周知を強化。
- ふるさと鳥取アプリ「とりふる」のリニューアルや都市部の若者による緩やかなネットワークづくりなどオンラインとリアルの相乗効果により、県外学生への情報発信や移住・就職相談対応の強化を図る。

## 「ミラ・クル・とっとり元気フェス」の開催結果について

令和7年12月18日  
協働参画課

「ミラ・クル・とっとり運動」に取り組んでいる団体の活動を県民に広く伝え、地域づくり活動の裾野を広げることなどを目的とした「ミラ・クル・とっとり元気フェス」を開催しましたので報告します。

### 1 ミラ・クル・とっとり元気フェス 開催概要

- (1) 日時 令和7年12月6日(土) 午前10時から午後4時まで
- (2) 会場 米子コンベンションセンター多目的ホール
- (3) 主催 とっとり元気フェス実行委員会
- (4) テーマ 見つけよう 地域の宝、育てよう とっとり愛
- (5) 入場者数 約1,400名



### 2 ステージイベントの概要

- (1) アトラクション  
山陰少年少女合唱団リトルフェニックス(合唱)、米子がいな太鼓保存会 颯連(和太鼓演奏)
- (2) とっとりSDGs子ども伝道師活動発表

発表校	内容
倉吉市立西郷小学校 4年生	児童が各自で防災タイムラインを作成し、気候変動による自然災害の激甚化・頻発化の視点を踏まえた地区のくらしの安全を守るための提言
米子市立福生中学校 2年生	「災害に強いふるさと皆生にするために、わたしたちにできることを考える」を探究テーマに、地域の人々の防災意識や安全を高めるためのアイデアを発案
地域の輪 -SIGMA- (境港市立第一中学校、 第三中学校生徒有志)	市内酒造メーカーで廃棄される酒粕を使ったスイーツを商品化し、公民館まつりや地域のイベント等で販売するなど住み続けられるまちづくりに貢献

- (3) とっとりSDGs川柳コンテスト表彰式(官民連携組織「とっとりSDGsネットワーク」主催)
  - ア 応募総数 493名(中学生以下:343名、高校生~大人:150名)
  - イ 受賞者数 中学生以下の部:4名(うち最優秀賞1名、協賛企業賞3名)  
高校生~大人の部:4名(うち最優秀賞1名、協賛企業賞3名)
  - ウ 協賛企業 株式会社エナテクス、中国電力株式会社、Tottori Mama's、美保テクノス株式会社、リコージャパン株式会社、千代むすび酒造株式会社

### (4) 青年組織交流会

- ア オープニング 琴浦町発公務員バンド shuzys(シュジーズ)による演奏
- イ ゲストスピーカーによる活動発表  
(ファシリテーター 原田 博一氏(内閣府地域活性化伝道師、総務省地域力創造アドバイザー))

ゲストスピーカー	活動地域	活動内容
EI! HOKUEI 理事 大西 浩嗣氏	北栄町	若者が企画・運営・出演する「エイ!フェス」を開催。若者の将来の夢や今チャレンジしてみたいことを応援する取組「STASTA」を今夏から始動。
かいけラボ共同事業体 代表 永井 高幸氏	米子市	温泉街の低未利用地を活用する社会実験や、空き店舗をリノベーションしてのサブリース、地域への情報発信等を実施。
Frontier School 代表 内田 奏杜氏	八頭町	廃校をリノベーションして学びの秘密基地としたり、県内外の大学生が中高生に遊びを提供する取組を通じて、意欲と創造性を育む機会を創出。
日野郡わかもの会議+ 代表 加藤 紘也氏	日野郡	日野郡をしっかりと暮らすことができる地域にすることを目標に、地域活性化のアイデアを形にしていく活動を展開。
コウラ3区 代表 丸山 ユキ氏	琴浦町	大人が楽しんでいる姿を地域の子もたちに見せたい、町が好きと言える人の輪を広げたいと、朝ヨガ・朝ごはんの会、ボードゲームの会等を実施。
ワカメ部 副代表 岸 浩之氏	岩美町	「ワカメフェス」の開催や学校での出前授業、グッズ開発・販売、オリジナルソングの制作などを通じて板ワカメや海の魅力を発信。

### ウ 交流会での主な意見

- ・どの団体も地域に根付いた活動をしていて、コミュニティづくりが大事だと改めて気づかされた。地元の人たちとのつながり、関係づくりをしっかりとやっていきたい。
- ・若者はタイムパフォーマンス・コストパフォーマンスを大事にすると聞くが、そのような子どもたちが遊びだったり面白かったりしたら取り組めるというのが今後の活動のヒントになった。
- ・地域活動は発表を聞いても何をやっているのか、何を目標しているのか伝わりづらいことが多いので、PR動画やグッズなどで見せ方にこだわることが大事だと感じた。

### 3 ブース出展・その他の取組

#### (1) 地域づくり団体等 32 団体による体験、展示、販売のブース出展

[主なもの]

工作ワークショップ（かいけラボ共同事業体、とっとり SDG s 自治体ネットワーク等）、指筆談体験（指談の会ゆびさき）、防災VR体験（あいおいニッセイ同和損保）、e スポーツ体験（境港玄孫プロジェクト）、地域づくり団体の制作の菓子、弁当販売（YSS だいせん、学生団体結梨等）、地域づくり活動団体のパネル展示、リーフレット配布 等

#### (2) ミラ・クル・とっとり運動やSDGs にちなんだクイズラリーの実施、キッチンカー・木育スペースの設置

### 4 来場者・参加団体の感想等

#### (1) 来場者

- ・鳥取県内の様々な団体の活動を知ることができ、よい体験ができた。
- ・木育スペースで子どもを遊ばせながら、活動団体の発表を見られてよかった。
- ・小中学生の子どもたちの発表を聞き、自分のSDGs活動を真剣に考えるきっかけになった。
- ・青年組織交流会で他団体とつながりを作りたかったので、参加してよかった。
- ・中高生や大学生をはじめ、若い人達が頑張っている姿を見て素晴らしいと感じた。

#### (2) 参加団体

- ・多くの方に自身の活動を知ってもらえることができ、よい機会となった。
- ・会場で他の団体とつながることができ、「今度イベントに一緒に出ましょう」と誘ってもらえ、活動の幅が広がった。
- ・団体同士の情報交換ができるような、もう少しクローズな空間での交流会も開催してほしい。